



アロンゾ デ マサオカ

マリア デル カルメンさん (パラグアイ)

## 『日本語と私の出会い』

皆様こんにちは。私はアロンゾデマサオカマリアデルカルメンと申します。本名が長くて覚えて下さる方が居ないのではないかと心配しています。通称の政岡マリアで宜しくお願いします。

二十一年前パラグアイから参りました。人生の半分日本で過ごしています。パラグアイは日本であまり知られていない国です。サッカーが好きな人ではなければ必ずと言っていいほど「パラグアイはどこですか」と聞かれます。パラグアイは、南アメリカの中央南部にある小さい国で、ブラジル、ボリビアとアルゼンチンに囲まれている内陸国です。首都はアスンシオンで、公用語はスペイン語とグアラニ語です。

私は国に何ヶ所もある日本人の町の一つで、ピラポというところで生まれました。小さい頃から、日本人と触れていたおかげで、いつの間にか日本は私の憧れの国になっていました。子供の頃からなれ親しんできた日本語は、小学校にあがってから、日系人の同級生達とたくさん覚えることができました。それから、ますます、日本に行きたいという気持ちが、おさえきれないほど大きくなっていきました。

一九九二年に、日系二世の人と結婚ができ、ついに日本に行く夢が現実になり、翌年初来日する事ができました。

国で覚えてきた日本語は、すごく役に立ちましたが、今のようにすらすらと話す事ができなかったために、次々と困ったできごとがおこって「これでは駄目だ」と気づかされた私は、日本語の勉強をする決心をしました。

勉強は苦手ではありませんが、その頃、まだ小さかった四人の子供達と毎日三時間の残業のかたわら勉強をするのは、けっして簡単な事ではありませんでした。ですが、その大変さより、私の日本語に対しての気持ちのほうが強いものでした。

異国に渡る人は、普通住みなれるまでホームシックになったりするものですが、私はそのような事は全く感じませんでした。なぜなら、私は日本語と日本の全てが大好きだったからです。少しずつでしたが、来日してきた当時より私の日本語はかなり上達してきたような気がして、とても嬉しく思います。

母国語のスペイン語とグアラニ語以外にポルトガル語も話せますが、これらに対しては日本語のように魅力的に感じた事はありません。愛国心を持たない人ですね、と思われるかもしれませんが、やはり私は日本語と日本の全てを言葉に言い表せないほど愛しているんだと改めて思いました。



これからも、もっともっと日本語の勉強をして、日本に住んでいる外国の人達に、日本語の美しさを伝えられる人になれたら良いなと思っています。美しい日本語は、日本でしか身につける事ができないので多くの人にそれを伝えるために、これからも日本語と共に日本でがんばっていきたいと思います。

これが、私が今日皆様にお話ししたかった日本語と私の出会いです。

ご清聴ありがとうございました。